

一 般 質 問 通 告 書

令和 7 年 2 月 27 日

高島市議会議長 河越 安実治 様

高島市議会議員 14 番 藍原 章

次の事項について質問いたしたいので通告します。

※質問項目（番号）が2以上ある場合は、次のどちらかに○をつけてください。

- ・質問番号1の用紙にだけご記入ください。
- ・質問が一つだけの場合は必然的に1となりますので、記入は不要です。

初問は { 1. 全項目一括質問一括答弁
② 項目ごとに一括質問一括答弁

(質問番号 2) 発 言 事 項	帯状疱疹ワクチンの定期接種の実施について
要 旨	<p>帯状疱疹は、水痘（水ぼうそう）と同じウイルスが原因で起こる50歳代から発症頻度が高まる皮膚疾患であり、水痘が治癒した後もウイルスが神経節に潜伏し、加齢、疲労、ストレスなどの免疫力の低下等をきっかけとして、ウイルスが再び活性化することで発症します。</p> <p>具体的な症状としては、皮膚のかゆみもしくは痛みから始まり、その後、皮膚の腫れや水ぶくれが出現し、発熱やリンパ節の腫れなどの症状を伴うこともあり、発見の遅れによって治療が長引くケースや、皮膚症状が治まった後も激しい神経痛が残るケースもあります。</p> <p>厚生労働省等が実施している感染症流行予測調査によると、成人の水痘に対する抗体保有率は90%以上であり、成人のほとんどは水痘に既に感染していることから、帯状疱疹の発症リスクを有しており、85歳の約半数が帯状疱疹を経験していると報告されています。また、80歳までに3人に1人が帯状疱疹を経験すると推定されています。他方、帯状疱疹の発症予防として50歳以上の方を対象とした2種類のワク</p>

チンがあり、いずれも高い発症予防効果が確認されていますが、これ迄は任意接種の位置付けで、生ワクチンはおよそ1万円、不活化ワクチンはおよそ4万4000円の自己負担が必要で接種費用が高額になることから、対象者が接種をためらう要因となっていました。私はこれ迄4回、带状疱疹のワクチン接種にかかる費用負担の軽減に、公費助成をしてはどうかと一般質問させていただきました。国内の各自治体で公費助成を実施している自治体は当初の28自治体から、昨年6月時点で公費助成している自治体は738自治体に増加しました。そして、

いよいよ本年4月から、国と地方自治体による定期接種が始まります。

高島市は、県下で最も高齢化が進んでいます。昨年の夏の猛暑や今冬の寒波など高齢者の体力低下や、免疫力の低下が懸念されます。

地域住民の带状疱疹の発症を防ぐために、速やかな定期接種実施体制の整備が必要と考えます。本市の取り組みについて伺います。

① 接種される方の自己負担額は、何割負担になるか伺う。

(・ビケン ・シングリックス でそれぞれ負担額はいくらになるか)

② 所得が低い人(生活保護受給者の方など)は、無料になるのか伺う。

③ 接種対象者の年齢区分と、基礎疾患の有無について伺う。

・60歳～64歳で基礎疾患がある、重症化リスクのある方(優先)

・100歳以上の方(優先)

・65歳の方

・70歳、75歳、80歳、85歳、90歳、95歳、100歳も含める

(2025年～2029年度までは、5年刻みの年齢で接種してもらう)

④ 高島市で接種できる医療機関の周知方法を伺う。

⑤ 定期接種の実施要項をまとめ、市のホームページで周知できるか伺う。

⑥ 接種対象者を、個別に通知できないか伺う。